No.57号　2015年3月　　発行：(一財)岐阜県地域女性団体協議会

つながれ　ひろがれ　地域女性団体ネットワーク！

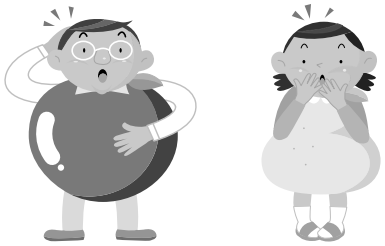
きふ地女協だより

第62回 全国地域婦人団体研究大会(福島県)

日　時：2014年10月19日（日）～20日（月）
場　所：分科会（会津大学）、懇親会（御宿　東鳳）
全体会：會津風雅堂

全国大会が福島県会津若松市で開催され、岐阜県からは11名で研修して参りました。

1日目　分科会報告



第2分科会　食と健康

・今考えよう私たちの身体（震災前後の検診データから）

特に肥満児が目立ち、子どもは外遊びが減り、大人は農作業をしなくなったことによる影響が見られる。

・家庭でできるメタボ解消の健康体操

震災以降に太ったと訴える女性が増えたことなどから、被災地における肥満の傾向を考察し、ストレッチ運動、筋力トレーニングを参加者とともに笑顔と笑いの中で実技指導された。参加者から自分が行っている筋力運動の報告などがあり、ストレッチは回数の決まりはない。リラックス効果があり、夜寝る前に行うとぐっすり眠れる等。平均寿命が健康寿命であるよう自分の体は自分で管理を。

・県産農林水産物・安心確保に向けた取り組み

生産量は、山の物と海の物が減っている。農林水産物の放射能検査結果はネットで公表している。安心･安全であるが、県は風評被害で売れなくなることが一番心配であると話された。私はマスコミに寄ること無く一人ひとりが真剣に考えることが大切と感じた。

（土岐市　楓やす子）

第5分科会　日進か教育から現代を学ぶ

我が国には仁・義・礼・智・信の「五常」という５つの常識があった。今、礼・智・信は形を変えても生き続けているが、仁・義は子ども達の心から消えようとしている。仁は人に対する思いやりの心である。義は人の道である。我々は仁・義の社会モラルを青少年の心の内に水が如く堪える器に育てることが大人の役割であり、これこそ道徳教育である。会津にはこの五常を会津藩主の教訓として会津藩校「日新館」で教育をしていました。現在の子どもにもわかりやすいように「あいづっこ宣言」や「什の掟（じゅうのおきて）」として伝えられています。会津一刀流剣士武道も小学生から継承され、歴史の町を感じました。

（土岐市　三輪やよい）

2日目　大会報告

会津婦人会保育園の園児35名が白虎隊を舞うというオープニングで歓迎を受けました。紹介のアナウンスを聞いて婦人会の保育園があるの!?とまず驚きました。伝統的な郷土の踊りを小さな園児が守り伝えているのだと思うと自然に目頭が熱くなってきました。

来賓として祝辞を述べられた福島県知事の言葉に「福島の復興の一番は皆様に福島へ来て頂くこと」と話されそのために色々な全国大会、世界会議を自ら誘致される努力をされてこられたそうです。

記念講演は会津出身でＮＨＫ「あさイチ」でおなじみの柳沢秀夫氏が登壇。「記者生活37年から見えてきた世界そしてふるさと“ふくしま”」と題して御自身の仕事のエピソード等をユーモア満載で語られました。会津の風土に生まれ育った者としては什の掟が自然に身にしみ、「ならぬことはならぬものです。」と「寒いからこそ背筋をピンと伸ばし前を見る。」すなわち自分の歩む道（前）を見るのだということです。116名のピンクのジャンパーで揃えられた福島の会員皆様での手作りの暖かいおもてなしにより無事全日程を終えることが出来ました。

（岐阜市　河野美佐子）

26年度東海北陸地区 結核予防婦人団体幹部研修会

11月27日(木)～28日(金)　ホテルアソシア静岡（静岡市）にて開催されました。

講演①　結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨 氏
「ＢＣＧ接種－子どもの結核予防の決め手－」

年齢が低いほど結核の感染後の発病率が高くなる。子どもの結核予防の決め手はＢＣＧ接種であるとのお話でした。

講演②　兵庫医科大学小児科学　教授　服部益治 氏
「予防接種の必要性」

赤ちゃんから子どもまで必要であり、健康被害を回避、最小限にするための有効な手段であるとのお話でした。（26年10月１日からは、水疱（みずぼうそう）、高齢者の肺炎球菌感染症の２つが定期予防接種に追加されました。）

講演③　認定ＮＰＯ法人オレンジティ　理事長　河村裕美 氏
「グローバルマザー　子宮頸がんと闘う女性たち」

子宮頸がんを告知されたのは、1999年７月です。新婚生活をスタートさせた１週間後のことでした。生理が重たいという症状がありましたが、痛み止めを飲めば動ける程度でした。しかし、結婚を機に夫の勧めもあり、婦人科を受診したのです。「これは、がんだな――」。内診台のカーテン越しに、医師からそう告げられました。

私は風邪も滅多に引かないし、インフルエンザにもかかったことがないので、絶対自分は病気になるわけがないと思っていたました。だから、がんと言われても全然信じていませんでした。

告知から１週間後、確定診断で、子宮頸がんの１ｂ期と診断され、子宮と卵巣を取る必要があるといわれました。私は急に子宮をとらなきゃいけない、子どもが産めなくなるということで心か動転し

そうでした。

それから自分の母に連絡しました。母は、開口一番「離婚しなさい」と。私はその通りだと思いました。この先自分の人生がどうなるかわからない。そんな人生に夫をつきあわせちゃいけないと思い離婚することに決めました。ですが、夫は非常に冷静で、「がんは治る時代だし、子どものいない家庭なんていくらでもあるのだから一緒に生きていこうよ。」といってくれました。

そして、夫の親族である保健師さんの勧めで、セカンドオピニオンを受けることにして、東京のがんの専門病院を紹介してもらいそこでもう一度検査をしました。子宮頸がん１ｂ期、腺がんで、非常に奥に入ってわかりにくく、転移が早い為、化学療法と放射線が効きにくいがんだといわれました。子宮と卵巣を摘出し、周りのリンパ節を合わせて取るという手術をすることになりました。そして約１カ月の入院生活を経て、静岡に戻ってきました。

精神的に一番辛かったのは術後です。入院中は、お腹が痛くなったり、出血しても近くにお医者さんとか看護師さんがいるので安心ですが、退院して家に帰ってくると、誰も答えをくれないのです。頭が痛くなったりすると頭に転移しちゃったんじゃないかとか、毎日くだらないことばかり考えていました。こんな日常に耐えられなくなり、半年後の予定でしたが、２ヶ月後には仕事に復帰していました。

女性特有のがんのサポートグループ　オレンジティを設立

静岡県に子宮がんの患者会がなかったため、同じ思いをする女性達と一緒に支え合いたい、正しい情報を共有したいという思いで、オレンジティという会を立ち上げました。子宮頸がんをはじめとした婦人科がん、乳がんの患者さん達を支援するというこの会の活動が、いま全国に広がっています。

ご存じでしょうか？子宮頸がんの後遺症

・子どもが産めなくなる

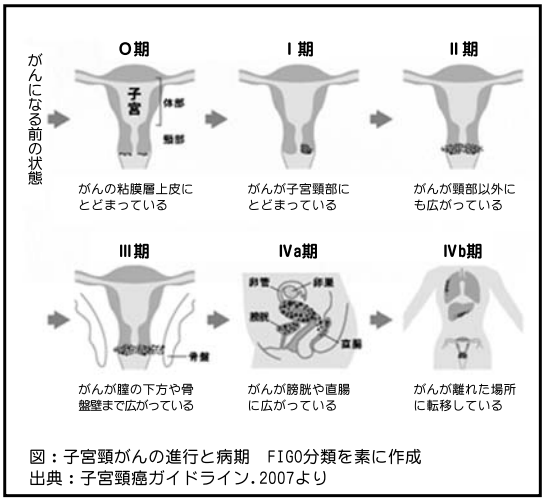
私はこのことが、がんになったことよりもショックでした。

・排尿、排便傷害

手術の際、骨盤内の神経もさわるため、神経が傷ついてしまうのです。私の場合も、尿意を感じなくなってしまい、時間を見てトイレに行く生活でパットも手放せません。

・卵巣欠落症候群（更年期障害）、リンパ浮腫

卵巣を取ることによって女性ホルモンが出にくくなります。のぼせやほてり、イライラ、めまいといった更年期のような症状が32才頃から始まりました。また、足のむくみ（リンパ浮腫）などにも悩まされるようになりました。



図：子宮頸がんの進行と病期　FIGO分類を素に作成
出典：子宮頸癌ガイドライン.2007より

・性交渉の問題

子宮頸がんというのは、人によって違いがありますが、子宮とプラス膣を1/3の所くらいで切ります。普通の人よりも膣が短くなってしまいます。

そのことで旦那さんとお別れになってしまう方も非常に多いです。そうすると経済的に問題が起き、20～30代で小さいお子さんを抱え、がんと闘いながら働いている方もいらっしゃいます。

経済的な備え、していますか？

治療中は入院、手術代などの医療費、交通費、家族の食事代。育児、介護中の人はその費用。治療後にも後遺症のケア（医療用ストッキング、尿取りパッド等）など非常にお金がかかります。

みなさんに期待すること

・情報の引き出しをたくさん持つこと

このお話を聞いて、子宮頸がんだった人に子宮だけ取ればよかったんだからよかったわね、とは言

えないと思います。正しい情報というのは相手の方にやさしくなれます。ぜひ、これからも子宮頸がんに限らず一つでも多くの事に目を向けてください。情報というのは自分のためだけではなく、相手のためでもあります。

・検診のすすめ（早期発見は重要です）

子宮頸がんの検診は、検診の精度の高いものです。前がん病変や、０期で見つけることができます。何か症状があってからでは、がんが進んでいる可能性があります。後のことを考えたら、非常に簡単で自分の身を守る、そして家族との関係もうまくいく大切なツールです。

しかし、子宮頸がんの検診率は20％位と低く、本当に検診を受けなければいけない20代30代の方達は、11％と極めて低い状況です。だからこそ、一人でも多くの女性に受けてほしいと願っています。

・啓発活動への参加

オレンジティでは患者さんのサポートに加え啓発活動も行っています。またフェイスブック、ツイッター、ミクシーへの皆さんのフォローや、ブログ等に掲載頂くと多くの方達に伝わります。ぜひご参加ください。

最後に

やはり女性が下着の中のことを話すのは、とても恥ずかしく勇気がいります。ですが皆さんが私の話を聞き、広げてくれることによって一人でも多くの方が、この子宮頸がんから救われるのなら…私は自分の体で未来に子どもを残すことは出来ませんが、未来に命を残すことができる社会的な母親にはなれるのではと思っています。ぜひ皆さんのお力で私をお母さんにしてください。

なお、次回（平成28年）は岐阜県で開催されます。皆様とともにより良い会にしていきたいと思います。ご協力よろしくお願い致します。

第19回 結核予防関係婦人団体中央講習会に参加して

平成27年２月９日(月)～10日(火)KKRホテル東京に於いて結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席のもと開会されました。川辺町女性の会 会長 西村紀子さんと一緒に参加させて頂きました。

「自分の健康は自分で作る」をテーマに…

学ぶ－知識－

１．結核という病気
２．結核予防ワクチン「BCG」について
３．肺の生活習慣病COPD（たばこ病）
４．「受動喫煙」の有害性
５．結核予防婦人会の活動
６．班別討議・・・婦人活動の活性化

考える

それぞれの課題で６人の先生の講習を受けてきました。

＊結核という病気は、いまだ世界的な感染症であり、日本でも薬を飲めば完治できる時代になりましたが、克服できない、やっかいな疾患です。風邪に似た症状で見逃されやすく今でも１日に58人の新しい患者が発生し、６人が命を落としている日本の重大な感染症なのです。２週間咳が続いたら疑ってみましょう。

＊結核予防ワクチンを接種することにより結核の免疫をつけることで、重症結核の予防に高い有効率が示されています。感染するとすぐに発病しやすい小児結核から子どもたちを守るために、必要な子が漏れ

ないように接種が必要です。

＊COPDになると、慢性閉塞性肺疾患は息を勢いよく吐けないという呼吸障害を特徴とする病気で慢性の咳、痰、息切れがして呼吸不全となり在宅酸素療法が必要となります。喫煙は脳梗塞・心筋梗塞も増やします。

＊喫煙は健康寿命を短縮させるのはもとより、周りの人（受動喫煙）は、まさに喫煙行為そのものといえます。喫煙はPM2.5に値するといわれます。

＊結核予防婦人会は全国大会の後援・中央講習会の開催・幹部研修会の開催・予防週間の共催・複十字シール運動の後援・国際協力、教育広報誌「健康の輪」の発行を主な事業として活動しています。

＊クロスロード（阪神・淡路大震災の時の「実話」がもとになった教材）を使った班別討議では、妃殿下もそれぞれの班にお入りになり一緒にお話し合いをして頂きました。

＊最後に婦人会の皆様へと20分結核についてお話しされました。

講習会に出席して学んだこと

結核は過去の病気ではないこと。COPDによる有害で主流煙（たばこを吸っている人）よりたばこの煙は、副流煙（たばこをすっていないそばにいる人）の方がはるかに有害であること。また付着した煙も有害であることに驚きました。結核をなくすためには何よりも、皆さんに結核について正しく理解してもらうことが大切だと思いました。身近な人を結核から守るためには、まず自分が結核のことを正しく知ることが予防の第一歩ですので、もっと知ることから学び、結核は怖い病気ではなく、怖いのは気づかずにうつしてしまうことです。結核の知識をさらに深め、複十字シール運動による募金活動を実施して一人でも多くの人にご理解をいただけるよう努力をしたいと思いました。また世界中の人々が、行き来する時代になっていますので、日本はもとより世界中から、結核をなくすためにも支援の手を伸ばす必要性を改めて感じました。学びの場を頂けたことに感謝します。

輪之内町女性会議　会長　安田　京子

地域だより

ちふれ化粧品美容講習会

11月5日（水）御嵩町婦人の会ではちふれ化粧品の美容部員の小杉先生にきていただき講習会を開催しました。

20名の参加者は、ちふれ化粧品について知らないことばかりだったのでとてもよかったと喜んでみえました。

お値打ちに購入出来たので助かりました。ありがとうございました。

（御嵩町婦人の会）

中部ブロック会長・事務局会議

１月19日（月）　大垣市で開催

富山、石川、福井、愛知、岐阜県の中部５県の会長・事務局会議を大垣で開催しました。どの県も会員減少や、資金面での問題等を抱えていますが、婦人の意見発表会や事例発表会の開催等、魅力ある婦人会活動を精力的に展開しています。また年々補助金も少なくなる中、収益事業も活発に実施し自助努力されており、とても参考になりました。

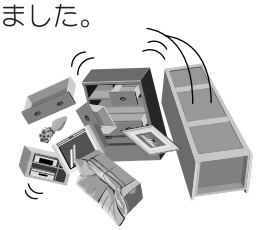
製品安全セミナー　開催報告

日時：９月14日（日）　13:30～15:30
場所：ふれあい福寿会館　301中会議室

私たちの暮らしの中で、毎日使用している電化製品の安全な使用法や、リコール製品等について学びました。各市町会員と一般の方を含め60人の参加がありました。

（１）「身のまわりの製品を安全に使用するために」

講師：経済産業省　製品事故対策室　山田　俊介氏



○身のまわりの製品で事故が起きている

H25年の重大製品事故件数は、電気製品、燃焼器具、その他（自転車、脚立等）の順に約1,000件起きています。特にガス、石油機器、電気製品については火災が多い。その他製品は転倒や重傷事故が多い。脚立は作業するときは補助者が必要です。

○リコール製品について

昨年長崎県のグループホームで、加湿器による火災事故により５名が亡くなりました。このメーカーの製品がリコールされていますが、情報がなかなか消費者に届きにくいという現実があります。年間900件中、100件ほどリコールされている製品で事故が起きています。

○リコールの情報をどのようにつかむか

・新聞の社告、チラシ、ＴＶＣＭ、インターネット（メーカー、政府のＨＰ）をチェック！
・販売店やメーカーとの接点を作る！
（製品を買ったときについているはがきを送付したり、大手販売店などのポイントカードを作ると住所氏名等を登録できるので有効です。）

○誤った使い方や不注意で事故は起きる

・石油ストーブ…火を消さずに給油で火災発生
・ＩＨコンロ…火の大きさがわからないので、知らずに高温設定で発火
（使い方に問題がないか、季節ごとに取扱説明書を今一度確認しましょう。）

○古い電化製品も危険！10年過ぎたら点検を

45年前のエアコン、35年前のウオシュレット等、使用中に突然火を噴くことも…
もったいないという精神はいいですが、古い電化製品を使用し続けるのは要注意！

経済産業省では、ＨＰにリコールや製品事故情報など掲載し、積極的な情報提供・注意喚起を行っています。製品に異常を感じた場合、まずメーカーや販売店に相談をし、連絡先が不明な場合は、消費者ホットライン（0570−064−370）を利用しましょう。

（２）製品評価技術基盤機構（NITE）　本屋　和男氏

電源コード・洗濯機の事故、扇風機・電気コンロの事故の事例、動画を交えての紹介がありました。

（３）日進木工（株）（高山市）　堀田　哲美氏

製品安全対策優良企業表彰　受賞企業である日進木工（株）では、家具製品が消費者に行き渡る前に、約５万回の厳しい耐久試験（テスト）を実施し、いかに安全性を重視した取り組みをしているか説明がありました。

※この機関誌は、岐阜県の助成を受けています。